

2025ビジョン



人をつないで、イノベーションを起こす



平成30年6月

公益財団法人こうべ市民福祉振興協会

1 ビジョン策定の趣旨

これまでのあゆみ

こうべ市民福祉振興協会は、平成30年に設立40周年を迎える。

これまで当協会は、「神戸市民の福祉をまもる条例」の理念を遵守し市民福祉の向上に寄与するため、しあわせの村の運営を開村以来手掛けるとともに、市民の福祉意識の啓発、福祉活動の普及・推進のほか、乳幼児一時託児施設、有償ホームヘルプサービス、高齢者等の権利擁護事業など先駆的事业を実施してきた。

阪神・淡路大震災に際しては、仮設住宅等への生活支援員派遣や配食サービス事業などに取り組み、現在は、ユニバーサルデザインの推進、障がい者就労支援など新たな市民福祉ニーズに対応した事業を実施している。



2025年に向けて

当協会を取り巻く社会状況は、2025年には団塊世代が75歳以上となるなど、現状のまま推移すれば、少子・高齢化が急速に進展しこれまでに経験したことのない人口減少社会が到来すると予想され、深刻な社会活力の低下が危惧されている。

このような社会状況の変化に対応するため、2025年の協会のあるべき姿として「公益財団法人こうべ市民福祉振興協会2025ビジョン」を策定する。

2 ビジョンの位置づけ

ミッション

「神戸市民の福祉をまもる条例」の理念の実現を目指し設立された

《協会定款第3条》

神戸市の市民、事業者及び市がそれぞれ有する人材、資力、その他の福祉資源を総合的に活用することによって、市民福祉を振興するための事業を創造し、かつ、推進し、もって市民の福祉の向上に寄与することを目的とする

2025
ビジョン

2025年の「こうべ市民福祉振興協会」のあるべき姿、取り組むべき重点施策を示すことで長期的な方向性や戦略を可視化する

中期経営計画

2025ビジョンを実現するための具体的な実施計画(平成30年度策定予定)

3 社会的課題と協会の現状

《2025年に予想される社会的課題》

- ・多様な分野での人材不足による社会活力の低下、地域活動の担い手の不足による地域の福祉力の低下
- ・医療・介護費等の社会保障費の増大、国や地方公共団体の財源不足
- ・福祉ニーズが増大するとともに、多様化・複雑化し、現公的支援制度(縦割り)だけでは対応が困難に

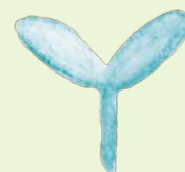
《協会の現状(強みと弱み)》

(1)協会の強み

- ・設立以来多くの先駆的事業を実施
- ・しあわせの村の開村以来の管理運営の経験(しあわせの村を知り尽くしている)
- ・しあわせの村内外の人的なネットワーク
- ・神戸市におけるユニバーサルデザインの普及広報、及び新しいユニバーサルデザインを実践している(ユニバーサルデザイン基本構想を神戸市に提言)
- ・市の外郭団体・公益法人としての信頼性

(2)協会の弱み

- ・自主事業による収入確保に限界があり財政基盤が脆弱
- ・人的・財政的な制約により新しい事業に取り組むのが困難



4 協会の将来像とコンセプト

協会の将来像(目指すべき姿)

しあわせの村という実践のフィールドを活かして、市・市民・事業者をつなぐことにより新たな市民福祉の課題を解決し、「神戸市民の福祉をまもる条例」の理念の実現を目指す。

基本コンセプト

人をつないで、イノベーションを起こす



5 ビジョンの全体像

人をつないで、イノベーションを起こす

取り組み方針

これからの
市民福祉の実現

しあわせの村の
新たな価値の創造



重点施策

- (1)障がい者ディーセントワークの実現
- (2)障がい者スポーツ・芸術の振興
- (3)アクティブエイジングを活かす
- (4)子ども・子育て支援
- (5)しあわせの村の活性化・イノベーション



ビジョン実現に向けた
経営基盤の強化

6 2025年に向けた取り組み方針

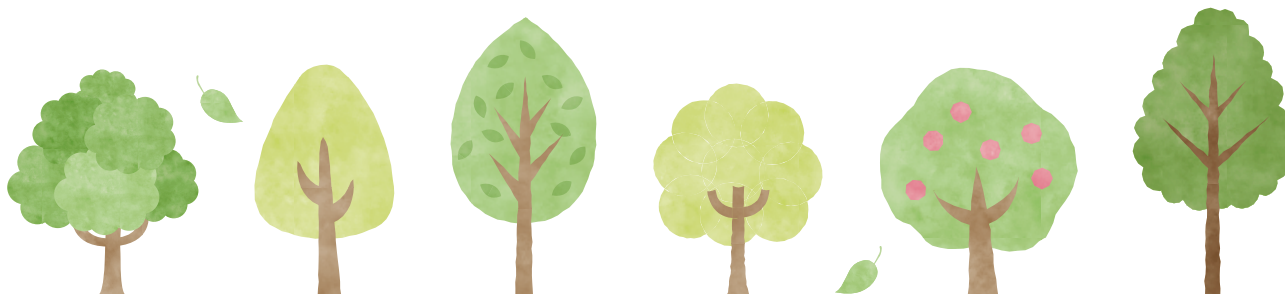
これからの市民福祉の実現

村内外における官民の多様なセクター・人をつなぎ、多様化・複雑化する市民福祉課題の解決を図る。
また、AI、IoT、ロボット技術などの活用を検討して新たな市民福祉の展開をはかり、その実体を国内外に大きく発信していく。

しあわせの村の新たな価値の創造

障がいのある人たちや高齢者がユニバーサル社会の一員として、自身の持てる力が発揮でき、多様な人々が交流できる場を目指し、ダイバーシティーやソーシャルインクルージョンの風土を創る。

また「しあわせの村あり方検討プロジェクトチーム報告書」を踏まえて、村の管理運営主体として、しあわせの村のイノベーション・活性化に積極的に貢献する。



7 施策の方向性（重点施策）

(1) 障がい者ディーセントワーク[※]の実現

※ディーセントワーク（仕事に生き甲斐と人間らしい尊厳を持つこと）を障がい者においても実現すること。障がい者がその能力・適性に応じて就労出来る環境を整備することが必要となる。

障がいのある人が自立した生活を送るために、働く意欲がある人がその適性に応じて能力が発揮できることを目指して就労支援を行う。

しあわせの村を活用した農福連携の取り組みを活かして、村内社会福祉施設とのさらなる連携を進める。

市内で就労支援を手掛けている団体と連携し、農業の6次産業化を図るほか、新たな製品開発によって高付加価値化を図り、障がい者就労賃金の確保を目指す。



(2) 障がい者スポーツ・芸術の振興

しあわせの村で障がい者スポーツの国際大会であるフェスピック神戸大会を実施した経験を活かし、パラリンピックを目指す障がい者アスリートの支援を行うとともに、障がい者スポーツのすそ野を広げる。

障がい者芸術の振興を目指して取り組んできた「こころのアート展」などの実績を活かし、障がい者の自己実現や生活の質の向上を支援する。



(3) アクティブエイジングを活かす

積極性にあふれた高齢期を「アクティブエイジング」ととらえ、就労・社会貢献の機会やいきがいの創出を図る。

しあわせの村のつなぐ機能を活かし、協会と村内施設の連携による高齢者参加プログラムを実践する。加えてシルバーカレッジ学生・卒業生による地域交流活動や地域社会との連携を深める。



(4) 子ども・子育て支援

福祉、教育などの分野と連携し、子ども達の健全な育成に関する取り組みを推進する。

しあわせの村を活用し、多くの子育て世帯が村を利用していただけるような子育て支援策を実施する。



(5) しあわせの村の活性化・イノベーション

ハード面だけでなくソフト面を含めてその魅力を向上させることにより、多くの市民が利用し、多様な人々が交流できる場としてのしあわせの村の活性化を図る。

平成28年度に策定したユニバーサルデザイン基本構想を実現するとともに、AI、IoT、ロボット技術などの仕組みを積極的に取り入れ、その成果を全市に発信する。



8

ビジョン実現に向けた経営基盤の強化

組織運営

時代に呼応した事業を推進するために、すべての職員が経営に積極的に参画する。

長期的視点で市民福祉の向上に取り組んでいくために、企画立案やコーディネート能力が高い人材を育成し、職員一人ひとりのスキルの向上を図る。

福祉ニーズの変遷に合わせた事業のスクラップアンドビルドを行う。

福祉課題の解決のための事業を、多様なセクター・人の協働により実施する。その際には、協会がコーディネーターとして積極的な役割を果たす。



財源

自主財源の確保や事業の見直し・効率化などにより財政基盤を確立し、新規事業の財源を確保する。

人や組織の対価として市からの補助金、委託料の確保に努める。

中期経営計画の策定

2025ビジョンの実現に向け、具体的な事業実施計画として中期経営計画を策定し、実績評価による事業の検証を行う。



〔資料〕

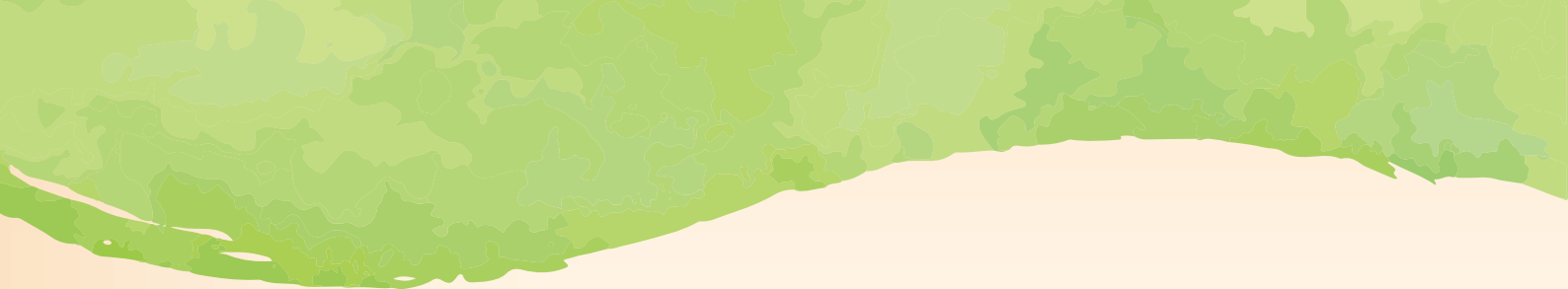
◆ 2025ビジョン検討委員会 審議経過

回	日 程	議 題
第1回	平成29年10月20日(金)	▶ 2025ビジョン策定趣旨 ▶ 2025年の協会の役割について ▶ 「しあわせの村あり方検討プロジェクトチーム中間報告」について
第2回	平成30年1月15日(月)	▶ 協会の現状分析 (組織・財務・ミッション)
第3回	平成30年3月20日(火)	▶ 2025ビジョン案について ▶ 「しあわせの村あり方検討プロジェクトチーム報告書概要」案について
第4回	平成30年5月29日(火)	▶ 2025ビジョン案について

◆ 2025ビジョン検討委員会 委員(順不同・敬称略)

	氏 名	職 名
委員長	松原 一郎	関西大学社会学部教授
委員	柏木 登起	特定非営利活動法人シミズシーズ代表理事
委員	土谷 千津子	社会福祉法人きらくえん理事長
委員	永田 宏和	特定非営利活動法人プラス・アーツ理事長
委員	清家 久樹	神戸市保健福祉局総務部長
委員	広脇 淳	神戸市建設局公園部長
委員	東野 展也 (鹿野 靖雄)	(公財)こうべ市民福祉振興協会専務理事 前 (公財)こうべ市民福祉振興協会専務理事
事務局	山本 隆 山岡 陽子 末角 馨	(公財)こうべ市民福祉振興協会経営企画課長 (公財)こうべ市民福祉振興協会経営企画課経営係長 (公財)こうべ市民福祉振興協会経営企画課経営係





平成30年6月発行

公益財団法人こうべ市民福祉振興協会
経営企画課

〒651-1106 神戸市北区しあわせの村1番1号
電話 078-743-8190

